

令和8年2月24日開催 第2回

超低出生時代を迎えた津久見市の小学校の在り方検討委員会

会 議 録

1 日時会場 開 会 令和8年2月24日 (火) 17時00分
閉 会 同上 18時49分
会 場 津久見市民図書館2階 会議室

2 出席状況 委 員 出席者 委 員 長 住 岡 敏 弘
副 委 員 長 石 堂 克 己
委 員 成 松 親 善
委 員 松 本 晃
委 員 玉野井 里 穂
委 員 麻 生 仁 見
委 員 甲 斐 みどり
委 員 土 谷 陽 史
委 員 今 泉 克 敏
委 員 吉 田 博 之
委 員 濱 野 克 公
委 員 江 藤 靖 雅

作業部会 出席者 学校教育課指導主事 後 藤 龍太郎
学校教育課指導主事 竹 田 順 和
経営政策課 主 幹 川 野 慎 司
社会福祉課 主 幹 高 野 龍

事務局 出席者 管理課長 宗 篤 史
管理課主事 佐 藤 ひかり

傍聴者 5名

記者 1社

- 3 議事等の概要
1. 開会
 2. 議事
 - (1) 経過報告
 - (2) 小学校の在り方検討に関する保護者の意向調査結果の報告
 - (3) 参考人(堅徳小学校 山本校長)に対する聴取
 - (4) 堅徳小学校等の当面の在り方についての検討
 - (5) その他
 3. その他
 - (1) 今後の予定についての説明(事務局)
 4. 閉会

4 会議の内容(要点まとめ)

1. 開会

前回欠席の委員の紹介

議事録署名委員に成松親善委員を指名。

2. 議事

(1)経過報告

(事務局)

レジュメ 第1回からの経過について報告。

(委員長)

質疑等はありませんか。 ⇒

(委員)

なし

(事務局)

資料8に基づき、今回は「当面のあり方について」検討する。基本方針によると小学校は「少なくとも、各学年複式学級編制にならない規模であること」とあり、参考資料より堅徳小学校は本年度2・3年生が複式学級となり、今後も継続する見込み。千怒小学校は令和12年度に2・3年生が複式学級となる予定。これらは今後5年間で起こることである。

そこで「当面のあり方」は、堅徳・千怒小学校のあり方となる。

今回は、小学校の保護者を対象にした意向調査結果を報告した後、参考人の堅徳小学校山本校長先生から現状の報告を受け、聴取をお願いしたい。

参考人退席後には堅徳・千怒小学校のあり方について、具体的な意見をいただき、検討委員会としての見解をまとめたい。

(2) 現小学校の在り方検討に関する保護者の意向調査結果の報告

(事務局)

資料1 本調査は一定数の回答を得られ、有効な資料であると考えます。

「小学校教育に対する満足度」について、教科担任制、教育相談体制が適切に機能しているため、一定の理解とおおむね高い評価をいただいている。

一方で少数の否定的な声もあるので、教育環境の充実や児童支援のあり方を検討していく上での課題として受けとめる必要がある。

質問②～④から、多くの保護者は「現在の学校への通学を継続したい」と思いながらも、複式学級への一定の課題を持っていることが読み取れる。

「小学校に通う子どものみ」「今後小学校に入学予定の子どももいる」家庭で分けたが、大きな変化は見られなかった。学年別では、1年生が若干「環境が整った大きな学校に通わせたい」保護者が多い。学校別では堅徳・青江・津久見・千怒小学校の順で「現在の学校に通わせたい」と考える割合が減っている。青江・千怒小学校は「環境の整った大きな学校に通わせたい」と考える割合が他校に比べて若干大きいことがわかる。

自由記述についてはテキストマイニングで分析した。その中で大きく出ている「複式学級」と「少人数」をキーワードに見ていくと、「少人数または複式学級のメリット・デメリット」という言葉が多く出ている。複式学級の指導方法など保護者が理解していないと思われる記述もあった。

そこで複式学級について保護者に周知し、その上で小学校のあり方について考えてもらうことが必要ではないか。

他にも様々な意見や願望が見てとれた。

(委員長) 質疑等はあるか。

(委員)

このアンケートは「複式学級」が悪いというイメージになるもので、「複式学級」に関するアンケートをとっているのだから、テキストマイニングで「複式学級」と大きく出るのは当たり前と思う。

また、**資料1**質問③については必須回答で、ネガティブな内容や今の学校では良くないと受取れるもので設問がおかしいと思う。「『アンケートの意図を知らせて欲しい』という意見が出た」のはこういう理由だと思うが、設問はどう決めたのか。

(事務局)

委員長を含めた作業部会で内容を検討した。

市としては今年度当初、複式授業解消の教職員を補填しようとしたが、今年1月まで決まらなかった。こうした厳しい現状を踏まえて、保護者が複式学級にどのようなイメージを持っているのか調査するため、今回アンケートを取った。説明不足だったことはご指摘通りだと思う。

(委員)

保護者は複式学級がわからない。今回のアンケート内容だとネガティブな文言が多いので「複式学級は悪い」というイメージがつくと思う。設問をつくるのであれば良いところもあることを内容に入れた上でないとフェアじゃないと思う。

(事務局)

そういった意見もあったので「どういった学校に通わせたいか。」という設問や複式学級のメリット・デメリットをきっちり説明した上で、もう一度アンケートを実施しようと、時期を含めて今検討している。

(委員) ぜひその方向でお願いしたい。

(委員) 次回作成したときに一度内容を見せてもらうことはできないか。

(事務局) 作業部会で検討したい。

(委員長)

アンケート結果から、複式学級を保護者が実感していないとわかった。何となく1クラスで複数の学年見るというイメージしかないと思うが、もっと具体的にイメージできるように周知していくことが必要ではないかと感じている。

一方で、現状の小学校にかなり満足度が高いこともいえる。

ご指摘の通り、このアンケートで小学校が統合になるのではないかとイメージされ、自由記述で反対意見が出たのはアンケートのとり方に問題があったのかなと感じている。

(3) 参考人(堅徳小学校 山本校長)に対する聴取

(堅徳小学校 山本校長先生)

資料2 現在、堅徳小学校の2・3年生合わせて12人なので今年度から複式学級になった。

令和7年度の常勤の教諭は6名であるが、1名「児童生徒支援加配」がついており、本来の定員は5名。また、市単独の複式解消非常勤講師がつくことで、主要教

科で単独の授業が可能となった。今年度は加配もあり少し恵まれた。

今後は令和11年度まで複式学級が続く。令和12年度には2複式学級になるかもしれない。今後6年間は、1複式学級、全校40数名で推移していく。

今年度は工夫によって、すべての教科で単式化を行っている。複式授業を行ったことは一度もない。ただ体育・図工・生活・音楽等は合同授業で行っている。

市単独複式解消非常勤講師については、昨年4月より募集したが決まらず、やっと今年1月から決まった。

津久見市内の先生で複式授業を経験されている方は少ないと思う。

私自身は無垢島で複式授業の経験があり、メリットもあるが主要教科はできるだけ単式で行いたい。堅徳小学校2・3年生の保護者からも「主要教科は単式で行って欲しい」という願いがあり、今年度取り組んできた。

(委員長)

情報整理の都合上、私から何点か質問をさせていただきたい。

まず、市単独複式解消非常勤講師だが、令和7年中は配置には至らなかった背景として考えられることがあれば教えて欲しい。

(堅徳小学校 山本校長先生)

教員の不足である。週20時間の午前中勤務となるので、なかなか条件に当てはまる教員がいなかったということだと思う。

(委員長)

これは県全体で抱える問題だと思う。

市単独複式解消非常勤講師について、来年度はどうするのか。

(委員) 令和8年度も継続して配置ができるように、予算計上している。

(委員)

議会へ上程前なので、予算措置が約束されたものではないことは了解いただきたい。今年度当初に配置できなかった原因として、教員不足もあるが、時間単価が必要に見合わなかった部分もあり、令和8年度は県の臨時講師の単価において積算し予算措置している。先程の補足になる。

(委員長) かなり単価も上がるということか。

(委員) はい。

(委員長) 今年度まで一切複式授業はなかったと理解してよいか。

(堅徳小学校 山本校長先生) はい。

(委員長) 2・3年生の保護者から「主要教科は単式でやって欲しい」という要求以外に何か要望はあったか。

(堅徳小学校 山本校長先生)

保護者もどうなるか予測できなかつたと思うので、その件だけだった。「主要教科が分かれるのであればやっていける」という言葉はいただいた。

また、2・3年生は今まで5人と7人で別々だったので、一緒に学級活動をする事で友達が多くなり「下の学年は上の学年の良さを学んでいる」という話が出ていた。

(委員長) 何かデメリットはあるか。

(堅徳小学校 山本校長先生)

人数が少ないことで競争意識などの部分は、デメリットがあるかと思う。

(委員長)

大分県や津久見市で複式授業ができるスキルが身についている教員は、実際どれくらいいるか。

(堅徳小学校 山本校長先生)

基本、通常の授業と一緒になので、時間配分等をしっかりすれば可能だと思う。

堅徳小学校では、数年前から「ガイド学習」を取り入れている。先生が個別で教えているときに、子どもが司会をしながら授業を進めるなど、主体的に学べるような構造になるよう、今努力しているところ。

(委員長) 他の委員は複式授業ができる教員はいると思うか。

(委員)

複式学級を指導することは特別な指導技術が要る。「わたり」は難しい。授業を2本考えることになる。複式学級が多くあった時代は、県の教育センターなどが難しいと感じるところを支えるため研修を実施していたが、今は残念ながらない。複式授業を学ぶ機会がない。

堅徳小学校で一定の授業ができる教員はいるが、現実として複式授業をしていない。これは誰かを責めるわけではないが。特に国語や算数になると、わかりが悪いと思ったら、流れを変えることが非常に大事。それがどうしても複式授業だと、ある程度決まったスケジュールで動かさないと授業が流れない。それも先生が困難を感じる理由だと思う。

(委員長) では、もう一人ご意見いただければ。

(委員)

今学校教育の指導を担当しているが、一番今苦慮していることは、経験が浅い先生の授業力をいかに向上させるかというところ。教員不足もある。大量退職時代を迎えて、教員が入れ替わる中、津久見市を拠点とする先生がものすごく減り、他地域から若年期で津久見市にくる先生が増えている。

授業力向上が私どものミッションであると思っている中で、それにはやはり経験が必要で、非常に大きな課題だと思う。

(委員長) 今年度は児童生徒支援加配教員がついているが、今後も配置が続いていくのか。

(委員)

これは国からの加配で、1クラス35人学級を推進する「基礎定数」という、教員の定数を埋めることを優先しているのので、この加配が今後も続くかという点と楽観視できない。しかし、県へ要望し続けていきたい。

(委員長)

私からの質問は以上。委員の皆様から質問をお願いします。

(委員)

複式になって前と後ろで授業をするとき、他の授業の音が気になったりしないのか。

(山本校長先生)

最初のうちは、やはり気になると思う。人数や声の大きさ等にもよると思うが。複式授業は児童にも経験が必要になると思う。

(委員長) どうしても声は交差する。仕切っているわけではないので。

(委員)

私は小学生のころに複式授業を受けた。その中で記憶があるのは、勉強面はあまり覚えていないが、お互いを思いやったり、一緒に活動したりした覚えがある。やむを得ない人数だったので、しょうがなかったとは思っている。

(委員長) しかしいい思い出だったと。

(委員)

はい。ただ教員不足で、複式授業の経験のない若い先生が複式授業をするのは厳しいと思う。

(堅徳小学校 山本校長先生)

複式学級は自然に他学年の交流が行われるメリットがある。

縦割班という学年を解いた班を作っている。他学校でも実施していると思うが、上級生のリーダー性や主体性を育成しながら、下級生に安心を与えるというところが大きなメリットである。

(委員長) 他にあるか。

(委員)

このアンケートで「複式学級は不安」ということを植え付けられた感じがしたが、今の話を聞いて、子どものために大変な苦勞と工夫の中、10年間やってきたんだなと思い、大変ありがたいが、堅徳小学校の「現在の学校に通いたい」という割合が一番大きい。

複式学級を知らない保護者が不安で、複式学級を経験した保護者が現在の学校が良いと言っていることが答えだと思う。

先生方の協力により、複式学級は不安なものではないと思うが、今全体の話を聞いて、保護者より学校の運営側が不安なんだと思った。先生のスキル等は難しいと思うが、保護者より運営側の難しい気持ちがこのアンケートに出たと思った。

(委員長) 校長先生は今の話を聞いて何かコメントはあるか。

(堅徳小学校 山本校長先生)

アンケート結果を見て、非常に勇気を持って教育を進められると感じた。

(委員長)

保護者から見ても通わせたいと思っている。なぜなら子どもたちから聞いているから。だからここに反映している。

(委員)

授業のコマ割りも相当考えていると思うので、他の学校の保護者にも「努力している」「複式は不安ではない」ことを伝えるべきだと思う。

(委員長) 他に何かあるか。

(委員)

大人は色々あるかもしれないが、複式学級の子どもは楽しく過ごしている。複式を経験したことがないのでわからないが、「上級生などとの繋がりが楽しかった」という話を聞いて、複式学級の方が伸び伸びとするということか。

(堅徳小学校 山本校長先生) 子どもに聞いてないので本心はわからない。

(委員) 複式じゃない学級と複式学級の子どもの様子の差を知りたい。

(委員)

複式の小学校と隣接する中学校で勤務したことがあるが、子どもは今の環境が好きで楽しくて、それは人数が多かろうが少なかろうが、考えは変わらないと思う。

(委員)

私は子どもの頃、2～5年生まで複式学級を経験している。ただ最初は嫌だった。前と後ろで授業していると、1学期は下級生の授業が気になって後ろを見たりしていたが、2・3学期になると普通に授業でき、いろんな意見を聞けたので良かったと思う。自分の子どもが複式学級になっても通わせたいと思う。

(委員長) 学習面はどうだったか。

(委員)

はっきり覚えてないが、先生が後ろで授業をしていたら、自分で考えたり、教え合ったり、わからないところを先生ではなく、同級生に聞いたことは勉強になったと思う。

(委員長) 他にあるか。

(委員)

データの読み取りだが、聖徳小学校は複式授業をしてない。これは押さえたほうが良いと思う。

(委員長) 合同で活動はしたけれど、授業は従来型の単式ですね。

(委員)

私も聖徳小学校で勤務し、小さい学校だがみんなで学校を作っていこうという、子ども主体の取り組みに方向転換した。そういったところも影響しているから、複式授業したときと今回は違うというところは、押さえておいたほうが良い。

(委員長)

現在まで、複式授業はなされていないということ。だから誰も経験はない。聖徳小学校の子どもたちもまだない。

(委員)

先生方も複式授業をやらなければいけないという意識はあると思う。でも現実なされていない。

(委員長) このデータは学校の取り組みに対する評価として表れている。

(委員) そういう面も1つの視点として考えるべきだと思う。

(委員)

私は複式を経験してないし、良い・悪いというものはない。小規模校は地域とともにあって評価をされていると思う。

堅徳小学校が複式学級になったから検討しようというルールのもとに、この委員会が招集されている。

小学校が全部統合したとしても他市と比べて小規模校になる。これをデメリットと思う保護者が1割強いる。社会福祉課が以前とったアンケートでも、教育環境という理由で転出を考える方がいる。

この在り方検討委員会が、10年後を見越したうえで方向性を示したときに、この1割の方は転出していくかもしれない。未就学の保護者の意見はまだわからないため、これがクロスしているかどうか。もし、1割を超える方が仮に転出を考えるとすれば、市の子育ての面からすれば看過できない。

高校進学を見越して転出する方がいる。当然だが保護者・中学生が転出するときには兄弟が小学校にいればあわせて転出する。実際にそういう方がいるのが現実。もちろん転入を増やす議論は別で必要だが、もっと減る可能性が高い。そこは頭の片隅に置いておく必要がある。複式学級はきっかけである。

(委員長)

今後少子化が進むことに関して在り方を見ていくと、これも今後の課題と思う。山本校長先生に対して何か質問があるか。

(委員) 校長先生にではないが、**資料1**の「定数」とは何をもとに決まるのか。

(委員) 国が示す小・中学校それぞれの標準学級数に基づいて教員の数が決まる。

(委員) 生徒の数ではないのか。

(委員)

学級数というのは通常1年生から6年生まで計6学級だが、堅徳小学校の場合は複式学級になって2つの学年が1つの学級として数えるので、計5学級となる。

(委員)

例えば2学年が1学級、3学年が1学級だったら定数は6という考え方で良いか。結局児童が多ければその分職員定数が増えるということか。

複式学級が2・3年生で1学級なので、定数が5人しかいない。そこに1名加配があるということか。

(委員)

はい。堅徳小学校に今年度支援が必要ということで児童生徒支援加配を1名つけてもらったが、来年度もつくと約束されているものではない。

(委員)

資料1「専科教員」は、外国語・体育が1名ずつ計2名で各学校を回っているということか。

(堅徳小学校 山本校長先生)

はい。堅徳小学校であれば木曜日が外国語、金曜日が体育の教員に来てもらっている。

(委員)

児童生徒支援加配がついたが、それでも厳しいため、非常勤講師を1名追加という考え方でよいか。

(堅徳小学校 山本校長先生) はい。

(委員長)

これにて参考人の聴取は終わる。山本校長先生ありがとうございました。

～堅徳小学校 山本校長先生 退室～

(4) 堅徳小学校等の当面の在り方について検討

(委員長)

では、堅徳小学校等のあり方について、具体的な検討に入る。

これまでの要点を整理すると、堅徳小学校については令和11年度まで複式が続く。千怒小学校は令和12年度に2・3年生が複式学級となる。

そういった中で堅徳小学校は今年度、単式授業が行えているが、今後教員の確保が難しい可能性がある。これは学校単独の工夫や努力では限界がある。

保護者は複式授業のイメージが共有できてない。主要教科は積み上げ教科なので、どこかで詰まると一気にわからなくなる可能性も高い。そういったものだけでも、単式授業でお願いしたいという要望や不安が高まることも予想される。

一方で、複式授業の経験者からすると、年齢関係なく仲良くできたり、リーダーシップが生まれたりというメリットもあると言う意見もあった。

運営側は若い先生が多い中で、高度な技術が必要な複式授業ができるのかという不安がある。保護者にも複式の経験がない中で、手探りの状況になるのではという恐れもあると思う。

補足も含めて、委員の意見をお聞かせ願えればと思う。

(委員)

今は子育て世帯の多くが共働きで、その子どもの放課後の居場所として、特に小学校低学年の「放課後児童クラブ」のニーズは高くなっている。ただ、放課後児童クラブも全クラブとも運営が厳しい。なぜかという、各クラブが独立採算方式をとっていて、基本は在籍人数に応じて国から1/2の支援金があり、残りの半分は保護者が負担する制度設計になっている。津久見市は令和5年度からその分を支援している。概ね児童1人当たり月額2,500円程度を市が負担している。

制度設計が利用人数に応じて支援額が決まるので、例えば50人の児童が利用するクラブが、35人利用になれば補助額が減額される。ところが児童クラブの支援員については、安全面から人数の規定があり人件費の削減は非常に難しい。

来年度の堅徳小学校の児童クラブは、1人月額4,000円程度の負担金で支援しないと運営ができない。これは来年度の金額で、今後さらに厳しいものになる可能性がある。市としても負担金が高騰すれば予算は厳しいものになると予測される。

また、教員の働き方改革が進み、長期休み等の習い事等をしていない子どもは、おのずと放課後児童クラブが中心になる。

現在は家庭という基本軸に、学校と放課後児童クラブ等の地域が両輪となって支え合っている。その中で放課後児童クラブが成り立たなくなれば、市としては、別の支援方法を検討せざるを得ない。子どもたちの成長の中で、学校というウエイトは非常に大きい。ただ子育て全体の視点で見たときには、この小学校のあり方という部分に、地域の現状も踏まえて検討していただきたい。

残念ながら、今年度歴史ある堅徳少年野球部がなくなった。地域に与える影響は大きい。堅徳小学校地域にも野球したい子どもがいるはず。

国が作成を推進している「子ども計画」は、子どもの視点に立って考えることを前提にしている。今回この在り方検討委員会が、これから入学する子どもを含め、子どもを第1に考え、10年後どういうあり方がいいかを皆様でご検討いただきたい。

(委員長)

少子化が進む中で、小学校の在り方とセットで考えていかなければいけないですね。他にあるか。

(委員)

1割の人のことを考えなければ、人口の流出・少子化は止められない。学童も人が減ると運営が大変になるということか。

(委員) はい。

(委員)

それも踏まえて10年後を考えると、統合ありきなのか。それは学童を1個まとめた方がいいから統合ということか。

そうではないと思うが、人口流出しないために、学童も大変にならないために、学童の支援員や保護者などから、どういった意見があるのかをもう少し具体的に聞

きたい。

(委員)

社会福祉課でアンケートをとった際、1割を超える方、特に未就学児の保護者が多く転出を検討されているというデータがあった。今回の結果とほぼ整合性がとれると思う。この解消は非常に難しいが、求められているのは多人数で、いろんな方と触れあって、いろんな意見を聞くことが、子どもの成長には必要と考えている保護者のご意見だと思う。ある程度の人数がいる環境、それは勉強だけではなく、スポーツや人間形成などの部分が、小学校時代には必要だと考える保護者がいるということ間違いはない。

放課後児童クラブの支援は、現時点では言えないが、少なくとも来年度は努力している。ただそこから先ははっきり言えない部分である。

(委員) 当面のあり方についても今後無理になる可能性もあるというのか。

(事務局)

放課後児童クラブと、このあり方検討委員会の話は全く別物。

ただ、平成17年の方針では今回「統合の検討の対象になる」ということ。

今回は、堅徳・千怒小学校の複式学級が開始すること、今後出生数がどうなるかわからないこともあって、この検討は10年後を見越して先に検討しましょうということ。

先ほどは子育て支援の立場として、放課後児童クラブが深刻な問題になっているという話で、この委員会自体の方向性を間違える可能性があるので、混同しないようにしていただきたいと思う。

(委員) 了解した。

(委員長) 他にあるか。

(委員)

予算に携わる立場から、教育に限った話ではなく、一般的なことで言うと。津久見市だけでなく、国や県も、人口減少が続く中、公共施設など箱ものだけではなく、公共サービスといったソフト部分についても、集約化を図って費用の選択と集中を促進するという動きがある。

これまで地方分権の方針で様々な権限が移譲されてきたが、津久見市などは特に人口減少が著しいため、担える人材が不足し、財源も確保が非常に厳しい状況になっている。そのため権限を元に戻す議論が始まっていて、この議論はこれからさらに加速すると予想している。国の流れに津久見市も取り残されないように、市内においても集約できるものはしていくべきであり、まず公民館や老人憩いの家などを集約する検討を進めているところ。

人口減少が進む中で、なるべくスリムな形で次世代に受け継がなければならな

い。個人としても、子どもたちによりよい環境で勉強してもらいたいという気持ちで予算編成に当たっている。

(委員)

アンケートから「統合か」といった意見を聞くが、検討委員会が始まる段階から既に統合ありきなのか。

(事務局)

今まで複式学級が開始することが統合検討の対象になってきた。それが今市全体で出生数が厳しい状況の中、子どもが現在の4校に分散した場合、集団の中で学ばせたいという方たちが「他の学校に行きたい」と出ていかれると、学校の存続見えない状況で、少子化の中どうするかを考えていきたい。統合ありきではない。

また、小規模になると充てられる予算が少なくなるので、トイレ等改修の問題のように、片づくまで時間がかかることも考えられる。

集約化すれば1回で終わるメリットは当然あるが、そこは保護者がどう考えるかということもあるのでアンケートを実施した。ただ、内容がネガティブではないかというご指摘もあったので、再度「今後どういった学校に通わせたいか」や説明を盛り込みながら、複式学級に限ったことではないように実施したいと思う。

また、未就学の保護者にも「どういったイメージを持たれているのか」のアンケートをとりたいと思っている。

(委員)

人口減少でスリム化することはわかるが、中学校が統合して不登校が増加した現実があるため、そういったことについて何か考えはあるか。

(委員)

中学校が統合した際は、逆に不登校だった周辺地域の子どもが学校に行くようになった例もある。いずれにしろ、「1人も取りこぼさない」という方針で対応していきたい。

(委員)

社会福祉課は不登校についても関与している。その中で今の不登校は昔のように学校現場が原因というのは非常に少ない。今は例えば、夜中にネットを見ることよっての昼夜逆転が原因で学校に行けない、それが原因で授業に追いつけないことが多い。でも適応指導教室「ネロリ」で支援の場を作っている。学校が大きくなったからというのは正直違う。ただ、実際に対応ができてない子どもがいるのは事実。

(委員)

大きい学校に行けない子の受け皿も考えてほしいという意見だと思う。津久見市の不登校はコロナ前まではあまりいなかったが、コロナ禍ぐらいから増えて今に至

るイメージがある。

(委員長) 他にあるか。

(委員)

複式学級はメリットもあればデメリットもあると思う。そのデメリットがなくなるように学校で工夫しているので、「複式学級になったからあり方を考える」という平成17年の方針は20年前作成ということもあり、見直したほうが良いと思う。今は質の高い教育の提供、魅力ある学校、その環境の整備を一番に考えている。

アンケートから「複式学級だから行かせたくない」という意見はあまりなく、信頼して評価していただけていると思うが、放課後子どもを預ける場所など、働く保護者のニーズにこたえられるのかを考えていくべき。

2030年には新しい学習指導要領も発表される。施設の老朽化の不安も確かに大きいと思う。

中学校統合の際に大変配慮し、他市にも負けない施設ができた。そういった環境をこれからも提供して欲しいという思いは学校現場としてある。

そういうところも含めて、平成17年の方針「複式になったから考える」は改めたほうが良いと個人的には思う。

(委員)

私も今の意見と同じ。

新しい学習指導要領には子どもが様々な他者と世界に向けて社会を作っている教育環境改善が打ち出される。ICT・AIに対応できる教育を強く求められている。

ただ津久見市はかなり厳しい。津久見小学校の施設は50年近く経ち、ネットの速度も遅い。他市から来られた先生もICTが何とかならないかという声を強く受けている。魅力ある、質の高い小学校のあり方を議論する形に修正したらどうかと思う。

(委員長) 他にあるか。

(委員)

統合ありきで話を進めているのではなく、行政の立場として、各委員が子育てや施設のあり方などの部分から、情報提供として発言している。

人事担当しているが、教員と同じく市職員もなり手が少ない。

実際40名程度しか毎年生まれてない。この子たちが津久見市で小学生に上がるのは何人かとか、そういった部分も含めて情報を出しながら、皆さんで検討していければと説明させてもらったと思っている。その辺りはご理解いただければ考えている。

(委員)

第1回にこの会議が統合ありきで考えているわけではないと言っていたのでそこ

は大丈夫。

ただ今回のアンケートで「統合か」という意見が多かったことは、お知りおきいただけたら。小学校は地域があつてのもので、中学校とはまた立場が違う。誤解をぜひ解いていただきたいと思う。

(事務局)

この会議のスタートは平成17年の方針にあるが、出生数が少ない中でこれが果たして良いかも含めて考えていただければ。統合ありきで検討ではなく、現状も合わせて理解いただきたい。

(委員長)

それでは意見も出尽くしたので本日の意見交換はこの程度にしたいと思う。

今回のまとめをする。

現実として、堅徳小学校は複式授業になる可能性が続くということと、千怒小学校においても今の基準でいくと、令和12年度から複式学級になる可能性があるということ。アンケートの内容から統合なのかとなっているが、あくまでも、子どもに質の高い教育を提供することについて、どうすればいいかを前提で考えていくことが必要ではないかということ。

新しい学習指導要領の中で、他者とのやりとりで自分を高めることや、ICT教育といったこともある。学校が老朽化している事実もある。そういったことも踏まえながら「魅力ある学校づくり」という観点で、もう一度考えていく必要がある。

複式にはっきりしたイメージもなく、教員や子ども、保護者も経験がない。それを前提に考える。その際には、地域の支援についても考えていく必要があるのではないか。

複式学級編制に対応した平成17年の方針方針は、近年の出生数を考えると実情に合っていないので、この際見直す必要があるのではないかという意見もあった。

以上、現状の議論をまとめさせていただいたが、何か補足などは良いか。

(委員) なし

(委員長) 作業部会において論点整理し、第3回あり方検討委員会で報告する。

議事を終了し、進行を事務局に戻す

3. その他

(1) 今後の予定についての説明(事務局)

(事務局)

資料8より、今後の予定を説明。

(事務局)

今後の日程について何か質問等あるか。

(委員) なし

閉 会

以上が本検討委員会の内容となりますので、ご報告いたします。

会議録作成者 管理課 佐藤 ひかり

[議事録署名]

上記に記録した会議の顛末は、真正であることを確認する。

署名委員 成 松 親 善